

日本生協連コープ商品の放射性物質検査結果 2022年度(2022年4月1日～2023年3月19日)

	基準値 (Bq/kg)	検出限界 (Bq/kg)	検査実施数	検出せず	基準値未満	基準値超過	
飲料(水)	10	2	11	11	0	0	
飲料(茶)			13	13	0	0	
茶葉 *1			40	40	0	0	
乳・乳飲料	50	10	49	49	0	0	
乳児用食品			50	50	0	0	
乳製品 *2	100	10	72	72	0	0	
穀類(米)		20	197	197	0	0	
穀類(その他)			8	8	0	0	
野菜類			4	4	0	0	
山菜類			0	0	0	0	
果実類			12	12	0	0	
豆類			1	1	0	0	
イモ類			0	0	0	0	
菌茸(乾燥しいたけ) *3			24	22	2	0	
菌茸(生しいたけ)			0	0	0	0	
菌茸(その他)			0	0	0	0	
油類			1	1	0	0	
肉類			1	1	0	0	
卵			0	0	0	0	
水産品			12	12	0	0	
水産品(藻類)			6	6	0	0	
食品(その他)			96	96	0	0	
飲料(野菜・果実)			43	43	0	0	
飲料(その他)			10	10	0	0	
ペットフード			-	-	0	0	0
家庭用品 *4	0				0	0	0
その他	0	0			0	0	
合計			650	648	2	0	

*1：茶葉の検査は、厚生労働省の通知に基づいています。まず茶葉に含まれる放射性セシウムを測定し、200Bq/kgを超えた場合その茶葉を使った茶湯が基準値(10Bq/kg)を満たすか検査します。検出限界は、茶葉を直接検査する場合は20Bq/kg、抽出した茶湯の場合は2Bq/kgです。

*2：一般食品の中でも、小さい子どもの利用が想定される食品(プリン、ジュース、菓子など)や、乳を主原料とする乳酸菌飲料や乳製品については、牛乳や乳児用食品と同じ検出限界(放射性セシウムについて10Bq/kg)で検査を行っ

*3：乾燥しいたけの検査は、厚生労働省の通知に基づき、重量変化率を用いて水戻し後の状態に換算した結果で評価

*4：園芸用の土や肥料などについては、「放射性セシウムを含む肥料・土壌改良資材・培土及び飼料の暫定許容値の設定について」に基づいて検査を実施することとしています。

※基準値、検出限界は、セシウム134、セシウム137を合算した量で表記しています。例えば一般食品であれば、セシウム134について10Bq/kg、セシウム137について10Bq/kgを検出限界として測定しています。実際の検査は、セシウム134、セシウム137を個別に測定します。